

党内の動き活発化

選代表進民

蓮舫氏対応協議 長島氏、出馬前向き

9月の民進党代表選に向けて党内の動きが活発化している。岡田克也代表の後継と目される蓮舫代表代行や、保守系の前原誠司元外相、細野豪志元環境相の動向が焦点になる中、1日には保守系の長島昭久元副防衛相が立候補を目指す意向を表明した。リベラル系も候補者擁立を視野に入れている。

蓮舫氏は1日、旧社

会党グループ重鎮の赤松広隆元農相と国会内で会談した。蓮舫氏が所属する野田グループだけでは20人の推薦人を確保できないため、代表選への対応を協議したとみられる。ただ、蓮舫氏は態度表明の時期を「今ではない」と周辺に漏らし、党内情勢を見極めようとしている。枝野幸男幹事長も同日、赤松氏と会談した。

した。

一方、長島氏は立候補を「真剣に考えたい」と記者団に語った。参院選での共産党などとの選挙協力を「党内議論がないままなし崩しに行われた。民進党が主体になるべきだ」と批判。憲法改正の議論も「避けて通れない」と述べた。推薦人のめどは立っておらず、前原、細野両氏との連携を探る。立候補した場合、現執行部の方針の

の

転換を明確に主張するとみられる。

リベラル系の長妻昭

代表代行は7月31日、代表選について「仲間と議論をして判断したい」と述べた。1日に

は旧社会党グループの近藤昭一元副環境相と国会内で会談した。

旧維新グループは江田憲司代表代行に近い議員が会合を開いた。【朝日弘行、影山哲也】